

## 平成29年度 学校評価

[各校の重点取組について]

### 学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に1回程度、教科内で研究授業と言った堅苦しい形ではなく、日頃の授業の取り組みを公開し授業改善への意見交換を実施している。</li> <li>・小学校で崩壊状態であった1年生の学力補充を中心に放課後学習との連携として週末課題を活用し家庭学習の習慣付けに取り組んでいる。</li> <li>・毎月の特別支援教育委員会を通じて個別の生徒の状況を把握と共通理解を進めると共に、通常学級で気になる生徒の洗い出しなど、丁寧な観察とともに保護者へのアプローチをすすめている。</li> <li>・巡回相談等で指摘された生徒、日常の観察により発達に特性のある生徒について、保護者に丁寧な説明と十分な話し合いを持ち特別支援学級への転籍が進んできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力学習状況調査の結果から国語は全国平均を上回り数学はほぼ全国平均に近づけた。</li> <li>・小学校で3年生頃から授業規律が崩れていた生徒たちは基本ができていないので3年生の進路を見据えての指導が課題である。</li> <li>・小学校の頃からこだわりが強く、特別な配慮が必要な生徒の洗い出しと職員と保護者合同の発達障害についての理解と対応についての研修会を実施し、保護者の理解が徐々に進んできた。今後は小中連携で小学校段階での早期の対応したい。</li> </ul>		
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校長)
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3	3
取組とその成果	課題と改善策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、学習指導要領の改訂に伴い「特別の教科道徳」に向けて全職員でアクティブラーニングを積極的に取り入れ、主体的に取り組む中で道徳心の向上を目指している。また、年間計画に沿って担任・副担任が各自の得意な教材でローテーション指導をするなど、工夫し取り組んでいる。</li> <li>・日々のあいさつ運動や朝学活・終礼の徹底、行事を通じて相手への思いやり、相手を尊重すること、信頼と協力、などを意識させ指導している。</li> <li>・1年生の夏休みに仕事調べ、3学期に公民館の「生き方探求」事業と連携し、地域の方から仕事の話聞き、2年生のトライやる・ウィークへと繋ぎ「キャリア教育」を3学年を通じ計画的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の教科化に向けて内容の選択や評価について研究を継続する必要がある。</li> <li>・授業には間に合うが、遅刻ぎりぎり登校してくる状況がまだ見られる。</li> <li>・学校規模が小さくなった割には、不登校生の数が減らない、小学校以来継続している生徒が多い。病名「起立性調節障害」に逃げる生徒が多数いるが、その実態は発達障害系の生徒がほとんどである。</li> <li>・生徒だけでなく保護者の理解を促すため、本年度、教頭が連続の講座形式で保護者向けの「キャリア教育」を実施し好評を得た。</li> </ul>		

<b>3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</b> (1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.5	3
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康福祉部の事業と連携し、平成22年度より継続して保健師の派遣を仰ぎ『食育』をとおして「生活習慣病」予防についての出前授業に取り組んでいる。</li> <li>一昨年度兵庫県教育委員会から「体力アップスクール」の表彰を受け現在も毎回の体育授業に持久走を導入し継続した取組をし、学校行事としてマラソン大会を復活させた。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>校内で部活動に参加している生徒はよいが校外のクラブチームや他の習い事をしている生徒の運動量がつかめない</li> <li>昔に比べるとちょっとしたことで骨折する生徒が多いように感じる</li> </ul>	

<b>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</b> (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		4	3
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度は、消防庁が実施する、少年消防クラブ交流全国大会へ参加し宮城県南三陸町へ行き、防災教育・震災体験を経験し、本年度は、地域振興センターと連携し、「むこっ子キャラバン」事業において、高校生や大学生と共に、地域防災の担い手養成プログラムを学び、全校生向けに文化発表会で劇にして報告会を実施。</li> <li>職員研修においてAEDの使用法、心肺蘇生法について尼崎市消防局の『普通救命講習』を全職員が受講し修了証を所持する。今後も継続的に再講習を受講するように取り組む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生は毎年、1学期初めの4月下旬に交通安全課と連携し自転車安全講習会を実施している</li> <li>各学期に1回の避難訓練を必ず実施している。</li> <li>本年度は特別に11月1日の兵庫県南海トラフ地震津波一斉避難訓練の際に、生徒に知らせずエリアメールで対応し、シェイクアウト訓練を実施した。</li> </ul>	

<b>5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</b> (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校づくりを推進する		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3.5	3
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>全教員が総務チーム・学力向上チーム・小中連携チーム・教員研修チーム・学習環境チームの5チームに分かれ各パートで研究を進め全体へ還元するので、各教員の意識の向上になっている</li> <li>毎学期、全校生徒と育友会、地域住民の協働による校区内の通学路を中心にした『ふれ合い清掃活動』を実施している。</li> <li>生徒会が「ゴミのない校区づくり」という創立以来の取り組みを強化するために定期的にボランティアを募り「JCD」に取り組む(地域の清掃活動)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館が実施する講演会・研修会などと連携して生徒向けのキャリア教育だけでなく、職員の研修の機会としても活用している</li> <li>校門の外側にある掲示板に各種行事など生徒の様子や学校の活動が解るように掲示物を継続的に増やしていきたい。</li> </ul>	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	3
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的に学ぶ授業づくり</li> <li>規範意識の醸成と授業規律の遵守</li> <li>家庭学習の充実・自学自習の習慣付け</li> <li>生徒会活動等の充実によるリーダー育成</li> </ul> 学習習慣の定着と学力向上 放課後学習や土曜チャレンジ、eライブラリーの活用など学力層に応じた 学習支援や計画的な朝学習の実施 家庭学習ノートの活用など宿題の徹底と点検 数学・英語の少人数学習の実施		<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動と放課後学習・土曜チャレンジとの兼ね合いを職員全体が共通理解の下すすめる必要がある。</li> <li>本校の学力向上の最大の課題は家庭学習の充実であり家庭との連携が更に必要である</li> <li>市内最小規模の学校になり教員数が減少し、生徒一人ひとりへの関わる時間の確保が難しくなる、学年の枠を超えた学校全体の意識がますます必要となってくる。</li> </ul>	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実	2.5
取組とその成果		課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上に向けた主体的・対話的で深い学びの実現</li> <li>本年度、道徳でアクティブラーニングに取り組み学習指導要領の改訂に対応する、3学期に公開授業・公開道徳を実施。</li> <li>集団生活に馴染みにくい発達系の生徒に対する指導支援</li> <li>年度初めに職員と保護者の合同で医療センターのDrによる「発達に特性を持つ生徒」についての研修会を実施。</li> <li>夏季小中連携でも同じように「発達に特性」を持つ児童生徒への対応と支援について研修会実施</li> <li>3年間を見越した進路選択・キャリア教育の充実</li> <li>教頭が保護者対象に数回の講座形式で「キャリア教育」を実施</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>各種行事や出張等により1学期に予定していた各教科ごとに実施するポイント授業が、2学期に持ち越しになった</li> <li>普通学級にいる発達に特性を持つ生徒の保護者へのアプローチと特別な配慮について、通級学級や特別支援学級との連携について今後更に研究が必要である。</li> <li>小学校との連携により入学前、小学校の段階での発達特性を早期に掴んでおく必要がある</li> <li>今後も1年の「生き方探求」事業、2年の「トライやる」と3年の「進路指導」と3年間継続したキャリア教育を計画的に実施していく。</li> </ul>	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果		課題と改善策	